

ジュニア・サッカー・サマー・フェスティバル

7年目を迎えたジュニア・サマー・フェスティバルは8月27、28、29の3日間、神戸中央球技場を中心に小学4年生から中学3年生まで、西日本各地の32チームが参加して熱戦をくり広げ、清水FC（清水選抜）が全部門優勝を果たしその幕を閉じた。

この大会は社団法人神戸フットボールクラブが主催し、同クラブの少年チームのレベルを高める相手として適したチーム、しかも日ごろ社会体育として少年チーム育成に情熱を注いでいる指導者の率いる強豪を、神戸に招くことを建て前としている。しかし、参加チームをみると、東の静岡から西の熊本まで各地の選抜チームが顔をつらね、全日本少年大会や全国中学大会に匹敵するほど充実した交歓大会として高く評価されている。この大会は試合の勝敗よりも内容に重点がおかれており、また第1回大会より試合は年齢別（学年別）に分かれているため、学校体育の大会では試合出場の機会が少ない下級生にも活躍の場が与えられ、小学校の低学年から中学3年生までの間、年齢に応じて選手を育成する上、非常に大きな役割を果たしている。

清水FCが全部門優勝

西日本の少年が熱戦を展開

大会期間中は交歓試合のほか、少年サッカーの健全な発展を願って「現状において将来の日本を背負ってたつ少年選手を育成するにはどうすればよいか」というテーマで、全指導者が選手村の国民宿舎・須磨荘に集まり、



技術的に見えたるプレーが多くあった

2部の前期終える
神戸市少年リーグ

神戸市少年リーグの2部（小学3、4年生男子）の前期が9月27日終了した。1組では神戸FCが全勝の成績をあげ、2位以下を大きく引きはなした。2組では東灘Cが5勝1分けでトップ。2位の箕谷Bはことし初参加のチームだが、全員が一生懸命いがんばり、すばらしいサッカーをみせてくれた。

2部1組

順位	チーム	神戸FC	蓮池	名倉	YMCA	千歳	ひよどり台	勝点
1	神戸FC-C	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○	10
2	蓮池	●●●●●●●●●●	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○	6
3	名倉	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○	6
4	神戸YMCA	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○	4
5	千歳	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○	3
6	ひよどり台	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○	○○○○○○○○○○	1

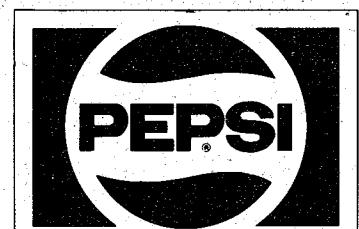
個人購読のご案内

弊紙を個人で購読ご希望の方は、1年分として50円切手12枚を同封のうえ、次のところへお申し込みください。

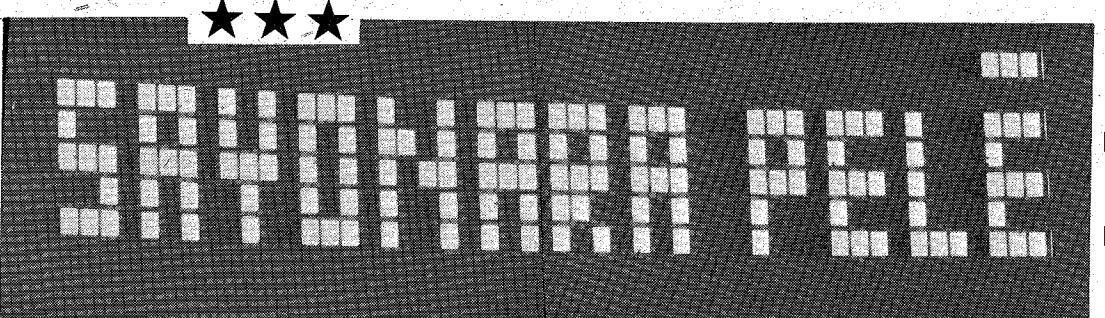
〒657 神戸市灘区上野通6丁目3-12
加藤 正信 ☎078(861)3100

なお、数人分をまとめて申し込まれる場合は、郵送料の割引がありますのでご連絡ください。

(ウエノ)



★★★



王様のはほに涙

感動のフィナーレ、酔う7万観衆

釜本も“日の丸”脱ぐ

試合終了の笛になると、場内は一転して幻想的なシーンに包まれた。淡いブルーのスポットライトが二人の「サヨナラ選手」を浮かびあがらせる。ペレが青い「9」のユニホームを着て、釜本もペレから贈られた白い「10」を身につけていた。イニシングランが始まった。ペレと釜本が日本選手の肩車にのって正面スタンドに帰ってくると、ついに「ペーレ、ペーレ」の大合唱が爆発した。ファンファーレの演奏がき消されながら、わきに釜本を従えてペレのお別れのあいさつに移る。二度、三度……投げキスをするペレ。ほほに流れるものがきりと光る。そして真白い壇上に立つペレは、はいていたシューズを脱ぎ彼の心を表すかのように、ていねいに本当にいいにひもを結び、釜本の肩をたたきながら手渡した。7万観衆だけ一人として席から離れようなどしないスタンドに向かって、日本語で「ミナサン・ドウモ・アリガトウ・ゴザイマベ……」

シタ。電光掲示板にくっきりと「SAYONARA PELE」が描き出される中を、王様と日本の星がさわやかに去っていった。ありがとうござペレ、そして釜本。

サヨナラ ゲーム
イン ジャパン

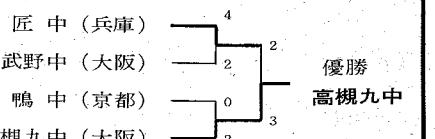
9月14日、国立競技場はすっぽりと7万人の人の群れで埋まつた。まるで外国のスタジアムにでもいるような異様なふん団氣の中でキックオフ。ペレは激しく燃えた。10日の古河戦とは見違えるばかりにすばやい。ペレが動く。そのイメージーションに富んだ動きを追うと、それだけで見ている者の胸が期待感でふくれあがってくる。期待していないことをペレがやってくれる“奇跡”にファンは酔いしれるのだ。「スポーツマンである前にりっぱな人間であれ」「常に最高の体調を維持せよ」「技術をみがけ」。王様が少年選手にアドバイスするとき、いつも口にする三つの持論だ。それを最後の勇姿を見にきた日本のファンの前に実践してくれた。

さがすがしさが漂つていた。サッカーにかけたひたむきな姿勢は、ファンの心にいつまでも刻みこまれることだろう。

鷹匠が準優勝

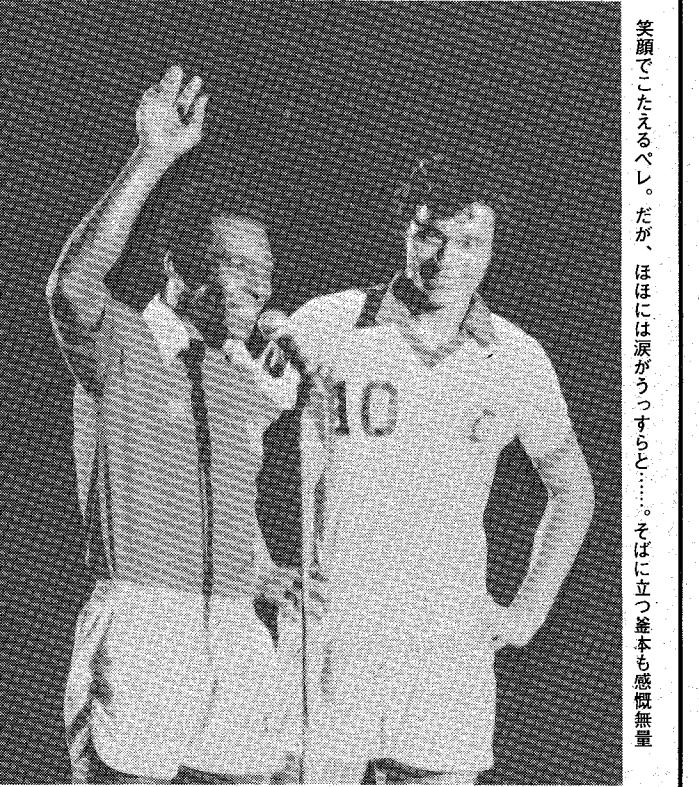
近畿中学校総合体育大会

第26回近畿中学校総合体育大会は8月24、25日、大阪うつぼサッカー場と岩崎レクリエーションセンターで行われた。近畿各府県から参加した12チームが、4つのグループに分かれて予選リーグを争い、グループ1位の4チームによる決勝トーナメントの結果、大阪代表の高槻九中が兵庫代表の鷹匠を下して優勝。なお、同じく兵庫代表の御原中はCグループで2位となり、決勝トーナメント進出はならなかった。



7万観衆の“ペレコール”がこだまする国立競技場 (9月14日)

笑顔でいたるペレ。だが、ほほには涙がうつすらと……。そばに立つ釜本も感慨無量



きびしさを痛感

兵庫高校選抜 兵庫教員団 韓国・釜山へ強化遠征

兵庫県高校選抜チーム（国体少年の部の兵庫代表）と兵庫教員蹴球団が青森国体の強化対策の一環として、それぞれ8月28日から30日まで、26日から29日まで大韓民国（韓国）釜山市へ遠征し、両チームとも2試合を行った。

個人のレベルアップを

兵庫高校選抜監督 佃幹夫

△第1戦

兵庫高校選抜2 (2-3)
0-1 4 釜山商高

8月28日、九徳競技場で盛大に行われた開会式のあと、緊張がぎめやらないまま試合にのぞんだ。釜山市は韓国高校サッカーの中心となるレベルの高い地域だが、対戦する釜山商高と東萊高校はその中にあっても、二位を争うチームである。第一戦では釜山商高のみのない確実なプレーに兵庫は苦しい試合運びとなつたが、大歓声をバックに激しい得点の取り合いを演じた。その前日、アルゼンチン・ワールドカップ予選で韓国代表がオーストラリアに敗れ、ファンは意氣消沈していたが「昨日のオーストラリア戦よりずっとおもしろい」という観客の声を、韓国の役員が



リーグ戦途中成績

=神戸市社会人リーグ=

(10月2日現在)

1部

神戸ライオン 2勝3敗0分、神戸製鋼 1-3-0、神戸市役所 1-3-1、マックエルフ 2-2-0、複合クラブ 3-2-0、神大同好会 4-0-0、神戸FCユース 2-2-1、スワローFC 3-2-0、双和クラブ 2-3-0

2部

【A】舞子台クラブ 3勝1敗0分、電々神戸 1-3-1、ビートルズFC 1-4-0、須磨クラブ 3-0-1、神戸スポーツマン 1-2-0、神戸かつおぶし 2-2-0、川鉄建 1-3-0、六甲ヒルケル 4-0-0、【B】川重西神戸 1-3-1、KRA&AC 3-2-0、南神戸朝鮮 0-3-1、魚崎クラブ 2-1-1、大森廻漕店 2-2-1、神戸FC・A 0-1-3、三菱重工B 1-1-2、川重発本 3-0-1、赤坂山OB 3-2-0

3部

【A】太陽神戸銀行 1勝5敗0分、川西倉庫 5-0-0、神戸税関 2-1-1、アーセナル 3-3-0、エンジョイ 0-6-0、兵庫教員B 4-0-0、是則運輸 2-2-1、神戸北OB 3-1-1、川鉄舎合 1-3-1 【B】ケンタッキー 4-0-0、海事検定 2-3-0、兵庫朝鮮 3-1-0、三洋電機 3-2-0、新日本検定 2-3-0、双和OB 1-3-0

実に満足気にベンチまで届けてくれた。しかし、後半になると集中力に欠け、相手の追加点を許して2-4で敗れた。

△第2戦

兵庫高校選抜0 (0-0)
0-1 1 東萊高

翌29日は東萊高校と顔を合わせた。スタンダードの歓声にもなれ、この試合こそは全員はりきってグラウンドに飛び出しが、体力、技術ともに数段上回る東萊に対し、一矢も報いられなかつた。火のついたような自陣ゴールを守るのがやつとといったゲーム展開となり、強烈なシュートを浴びたがパックスのかたい守りで失点を防いだ。兵庫も時おり逆襲をみせるが力なく0-1で終了した。

釜山商高、東萊高ともによく鍛えられている。シュートははずれることはあっても、中盤での凡ミスはほとんどないといってよい。センタリングもGKがとび出しにくいポイントへ正確に落としてチャンスをつくる。派手でスマートなプレーこそないが、われわれが兵庫チームに指示していることを釜山の選手は実にあざやかにやってのける。いくら走っても落ちることのないスピードや、バランスのとれたボールコントロールはうらやましいかぎりだ。やはり強いチームに育ててのには、一人ひとりが個々の場面で相手の選手に勝てる力をもっている。メンバーは18-22歳の若い選手で、そのため、毎日3時から7時まで猛練習を積んでいると聞いた。試合開始から35分間は教員団がよく走り（相手のスピードにリードされたのかも）、互角のゲームを展開し教員チームの実力を見なおす感があったが、がんばりもここまでが精一杯。このあと連続3ゴールをとられ、後半になると大宇実業は鋭い動きとはやいパスワークで教員を苦しめ、着実に得点を加えて合計6-0で教員団を圧倒。選手のだれもがサッカーのきびしさを、あらためて感じた一戦でもあった。

貴重な体験を生かしたい

兵庫教員団部長 一北四郎

△第1戦

兵庫教員団 3-1

釜山市蹴球協会役員チーム教員団が対戦した釜山市蹴球協会役員チームは、協会所属のコーチや審判員などで構成され、中には元韓国代表選手だった金浩選手（現在東萊高コーチ）で浦項製鉄のF.Bとしてプレーしているなど高い技術をもった選手もいたが、スタミナにまさる若い教員団が楽勝した。

△第2戦

兵庫教員団 0-6 大宇実業

第2戦の大宇実業は釜山市代表として、9月下旬の韓国の国体に出場する強チーム。2年前に将来実業団リーグに加入する目的をもって結成されただけあって、運動量、スピード、技術、戦術能力のどれをとっても教員団をはるかにしのいでおり、日本リーグ1部のチームを相手にしても好試合ができる実力をもっていた。メンバーは18-22歳の若い選手で、そのため、毎日3時から7時まで猛練習を積んでいると聞いた。試合開始から35分間は教員団がよく走り（相手のスピードにリードされたのかも）、互角のゲームを展開し教員チームの実力を見なおす感があったが、がんばりもここまでが精一杯。このあと連続3ゴールをとられ、後半になると大宇実業は鋭い動きとはやいパスワークで教員を苦しめ、着実に得点を加えて合計6-0で教員団を圧倒。選手のだれもがサッカーのきびしさを、あらためて感じた一戦でもあった。

神戸勢の争いか

兵庫県社会人中央大会

52年度兵庫県社会人中央大会は9月25日開幕し、10月23日の最終日まで好ゲームが展開されている。これは県下各地区の代表24チームがトーナメント（一部敗者復活戦）で争うものだが1、2位のチームは53年度兵庫県社会人リーグに自動昇格し、また3、4位のチームは同じく社会人リーグの5、6位との入れ替え戦に出場する資格が得られる。

本紙は次のところにもあります

関正スポーツ

生田区下山通6丁目65 ☎ 078(371)0857
兵庫県300m西側

灘スポーツ

灘区倉石通5丁目1-8 ☎ 078(861)4671
市バス水道筋6丁目上がる100m東側

ヤマダスポーツ

葺合区熊内通6丁目3 ☎ 078(241)9317
兵庫県立小学校前

塩谷スポーツ

兵庫区大開通7丁目5 ☎ 078(576)0870

MEN, S SHOP MAC

三宮センター街店 ☎ 078(391)0895
プレザーショップ ☎ 078(391)0896
トヨアロード店 ☎ 078(575)7688
神戸・新開地店 ☎ 078(575)7688

神戸市社会人リーグ運営会議

10月13日(木)

11月17日(木) 12月15日(木) 1月19日(木)
2月16日(木) 3月16日(木)

なければならない。それも試合を通じて集中力の持続が必要となってくる。

今回の遠征ではもちろん勝負を意識して戦ったが、結果は満足できるものではなかった。恵まれた環境の中で得たものは何か。劣等感をいだくだけで終わるのなら何にもならない。遠征の試合で味わった「くやしさ」を明日からの練習に生かせるよう選手とともに励んでいきたい。

代表かけ激戦模様

兵庫県予選高校選手権

神戸追う御影工、長田、県芦屋ら

52年度全国高校選手権大会兵庫県予選は10月29日開幕し、神戸中央球技場など17会場に分かれて熱戦が繰り広げられる。



参加120チームの中で、まず優勝候補をあげると実力的には神戸と御影工に絞られる。神戸は昨年よりもレベルが低いといわれるが、新入戦と総体で県優勝を飾り、ここ一番の試合になると伝統の力を發揮する。3年生が夏休みに精神的な練習を積み、この大会にかける意気込みはすごい。チームの大黒柱・厚田は日本ユース選抜の一次候補に選ばれボールコントロール、選択眼などのセンスのよさは抜群で、文字どおりチームをぐいぐい引っ張っていく。同じくユース候補にあげられている高浜は、2年生ながら鋭い突っ込みと強烈な

なシュートをもっており、最近ますます自信をつけてきた。守備陣はGKの新谷が安定度を増し、不安なパックスも神原を中心にミスが少なくなっている。

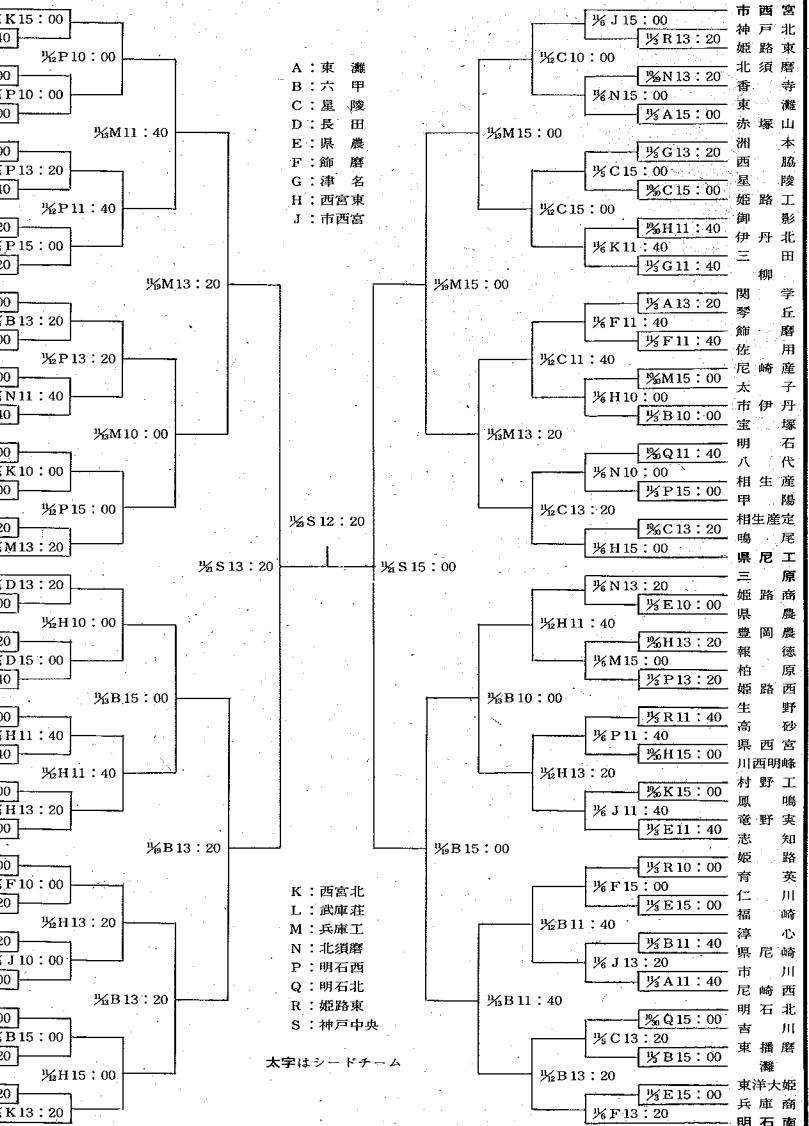
一方の御影工は、精神的なもろさでこれまで重要な試合を落としてきたが、この点を改善しているかどうかが最大のポイント。高い個人技は兵庫県一の折り紙つきだが、それに加えてパスワークにも磨きがかかり柳、田中を軸とするハーフとパックスは強力だ。攻撃はツートップの形をとるが、C.F.大野の負傷が少し気がかり。

組み合わせをみると両者は同じブロックに集まっており、順当にいけば準々決勝で顔をあわせ、その勝者が決勝に進出するのはまちがいのところ。

二番手としては長田、県芦屋あたりか。長田は3年の林、大野らを中心にして1、2年生のがんばりが目立ち、先の神戸市総体の決勝では御影工に敗れたが、安定した高い力をもっている。県芦屋はエース鍋島のケガが痛い。復調できるかどうかがカギを握っている。

夏の総体で神戸と優勝を分けた明石南は、3年生が夏休みに練習を休み9月からスタートしたが、練習不足からくる戦力低下はまぬがれない。これに続くチームは須磨、市西宮、県尼工だが、尼崎北もダークホース的存在として注目されている。大成中、塚口中出身の優秀な1、2年生がそろっていて、県芦屋との対戦は大会前半の見どころのひとつ。高浜は、2年生ながら鋭い突っ込みと強烈な

昭和52年度 全国高校選手権大会兵庫予選 兼兵庫県高校選手権大会組み合わせ



(神戸市立御影工高教諭)